



グループ創造教育のさらなる試み

—学生にフィールドワーク体験を・白山里合宿(三村修隊長、國藤進研究室主催)—

今回はフィールドワークを中心とした合宿形式のグループ創造教育の試みを紹介します。教室を飛び出し、豊かな自然、地元の人たちとのふれあいなど、現場を肌で感じることで学生にもさまざまな変化があったようです。

5泊6日の合宿生活

合宿は、温泉付き研修施設「白山里」(白山市瀬波・旧吉野谷村)において、8月24日(日)～29日(金)の5泊6日で行われました。フィールドワークによる取材を取り入れた知識創造技法の習得をめざし、留学生を含む博士前期課程の学生 11 名が参加。白山麓というフィールドのなかで、地理、文化、産業、歴史など自らの興味に沿って取材し、データのまとめまで行うという密度の濃い時間を過ごしました。



フィールドワークで訪れた民俗資料館の畑で、職員の方と

1日目

8月24日(日)

2日目

8月25日(月)

3日目

8月26日(火)

1日目●8月24日(日)

**正午頃に白山里に到着。
まずは自らと向き合い、
興味を探る。**

このエリアに詳しい学生の話やパンフレット・地図などの事前収集資料を参考にして、興味に近い者同士でグループを作り、問題提起のグループ作業。初日から深夜2時まで話し合うグループも。これも合宿の醍醐味か。



2日目●8月25日(月)

**午前中は昨日のグループ
作業について発表。
午後からさっそく取材へ。**



4台の車に分乗し、白峰、中宮、鳥越などそれぞれの目的地へ。事前のポイントは一切なし。とにかく現場へ! ほぼ全員が初めてのフィールドワーク。当然「恥ずかしくて声がかけれなかった」「聞きたいことが聞けなかった」などの失敗談が多かったものの、牛首紬の工房では、熱心な交渉で工場長さんへの翌日の取材ポイント獲得に成功したり、訪れた寺院でタイミングよく和尚さんに出会って話を聞けたりと、うれしい結果も。みんなの成功・失敗の経験をもとにそれぞれ明日の作戦を立てて、就寝。

3日目●8月26日(火) **引き続き現場取材。**

朝から牛首紬工房の工場長さんの取材へ。ほぼ全員で押しかけ、質問攻めに。その後それぞれのフィールドへ散り、旅館の女将、地元の農家の方、立ち寄った温泉の受付の方などにさまざまな話を聞く。徐々に知らない人に声をかけることにも慣れてきた。最初は怪訝な顔をされることもあったが、きちんと趣旨を説明して、熱心をお願いするうちに、相手もそれに応えてどんどん知らない話を教えてあげようという雰囲気。

4日目●8月27日(水)

取材で得た情報から 図解を作成する個人作業を開始。 数名は引き続き取材も。

まずは膨大な取材メモをデータカードにする作業から始める。実際に自分で取材した生情報をデータカードにするのは初めての体験。1枚のカードにひとつのことをいかに表現するか。1枚の重みを改めて思い知る。

一方、取材を続けたグループにのなかには、未舗装の道での脱輪、しかも頼みの携帯電話が圏外、といったトラブルも。しかし、その苦勞の甲斐？あつてか、帰りに偶然出会った山菜採りのおばあさんに、今となっては非常に珍しい「出作り」*の話聞くことができた。

*村から離れた山奥に小屋を持ち、焼畑などを行う農家。冬季に山を降りる季節出作りと、山中で越冬する永住出作りがある。



理想と現実
貴族の白山信仰は理想的で、庶民の白山信仰は現実的だった。

全て是水
白山の恵みも、災害も水に関係するので、白山信仰に水はつきものである。

白山珍名所
今でも御神体が仏など、謎な神社が白山にある。

一粒で二度おいしい
観音様にお参りすると、現世と来世のご利益がある。

白山信仰の過去と現在

1. 図解作成日時: 2008/08/29
2. 図解作成場所: 白山里
3. データソース: 白山市北部取材データカード(190件)より54件抽出
4. 作成者: 古川洋章(JAIST)

兵どもが夢のあと…
百姓や大名の反感を買った僧兵は、一向衆によって全滅した。

気分は貴族？
天領の地区は、貴族的な文化だった。

過去から未来へ
泰澄大師の開山から、現在の白山登頂は続いている。

残るモノ消えるモノ
住民の仏への信仰は高いが、寺が減っている。

古川洋章さんの作品
「白山信仰の過去と現在」

5日目●8月28日(木)

引き続き図解の作業。

朝から晩までひたすら作業が続く。ほとんどが翌朝5時、6時まで作業。中には1時間しか寝ていない学生も。

4日目

8月27日(水)

5日目

8月28日(木)

6日目

8月29日(金)

最終日

6日目●8月29日(金) 最終日

成果発表。

前日からほぼ寝ないで作業を続け、午後から一人ひとり発表。最終的に図解が完成したのは数名だったが、完成できなかった学生も、調べたことを発表したり、この合宿に参加しての感想を述べたりして、自分なりの成果を確認した。



学生のイキイキとした 発想を生むフィールドワーク

今回の合宿は、学生たちにとって極めて意義深い教育プログラムとなりました。

まず、合宿という形式そのものが素晴らしい経験だったようです。豊かな自然、心温まる宿、山里ならではの食事、温泉。特に留学生などは、こうした所へ足を運ぶこと自体が少ないのが現状でもあります。

グループでひとつのテーマに集中して取り組むという機会も、こうしたチャンスがなければ実際にはなかなか経験することはできないでしょう。

また、参加者の一人は「話が八艘飛びに盛り上がっていく高揚感は何とも言えないものがあった」と対話の楽しさを一番に語ってくれました。いつもとは違う空気の中、教室でのグループワークとはひと味もふた味も異なるイキイキとした知識創造を体験したようです。

最後にこの場を借りて、素晴らしいサービスとご馳走を提供してくださった「白山里」の皆さま、そして学生たちの取材に快く応じてくださった白山麓の皆さまに、心よりお礼申し上げます。